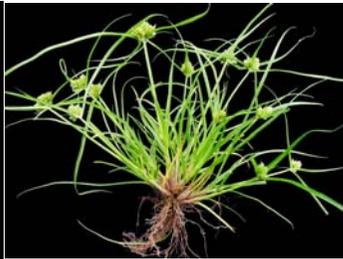


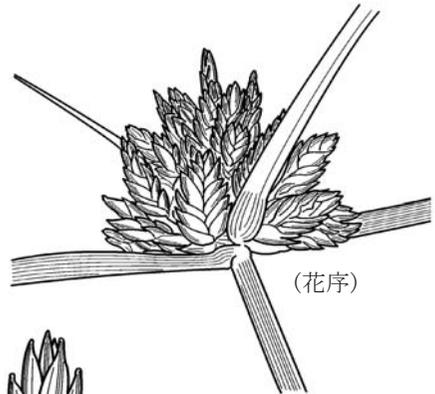
アオガヤツリ *Cyperus nipponicus* Franch. & Sav.



05/8/21 我孫子市



12/9/10 河口湖町



(花序)



(果期に振れる小穂)

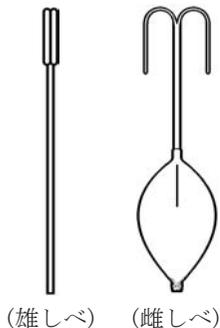


(花序の一部、小穂の振れがみえる)

(小穂)

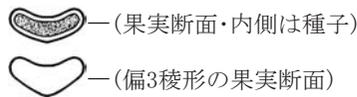


(柱頭 3岐)



(雄しべ)

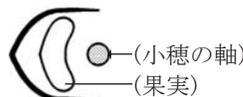
(雌しべ)



—(果実断面・内側は種子)

—(偏3稜形の果実断面)

果実の位置の模式図



(小花の鱗片)

(小花)

はじめに

アオガヤツリはカヤツリグサ科カヤツリグサ属シロガヤツリ亜属の植物で、手順をふめば同定は難しくない。(よく似た種類が多く含まれて分類が複雑な科や属では、亜科・亜属などいくつかのグループに分けて検証を進めるのが理解しやすい)

《手順1》9月初旬、山梨県河口湖町の河口湖湖畔で採集。神奈川県や千葉県には生育するが筆者のフィールド(東京都)ではみかけず、これまで2~3度しかみていない植物であるが、普段みながないため種名は出てこなかったが、見覚えがあったことから調べればすぐ判るだろうと考えていた。

《手順2》種名をてっとり早く調べるには、図鑑などで絵合わせをして近似種をみつけた。本種は花序の形から絵合わせで比較的たどりやすい種類である。(近似種との比較には、花序の分解が必用なことが多い)

《手順3》採集した植物を押し葉にして、花序の分解時や近似種との区別点の確認などする場合に適時参考のできる状態にしておく。(押し葉は、難しく考えずに簡単に済む方法で行う、手間暇が掛からない方法をくふうするのがコツである。みせるのが目的ではない)

アオガヤツリ *Cyperus nipponicus* Franch. & Sav.

《手順4》花序を分解する。慣れないと少々おっくうでなかなか厄介であるが、必須作業である。乾きすぎると上手に分解できない場合や、柱頭などが乾燥してはつきりしなくなるケースもある。イネ科やカヤツリグサ科などが敬遠される大きな要因だろうと思うが、カヤツリグサ科の植物の場合は必ず行わなければならない最も基本的なもので、植物名が判明した時の充実感を得るための一里塚と考え取組んでいただきたい。

《手順5》分解と同時に必用事項や気の付いたことなど記録しておく。

《手順6》得られた情報をもとに、種名を調べる。(用語はサイト内の「イグサ科 カヤツリグサ科 イネ科、類似3科の図解区別一覧」参照)

〈属の検索〉(本サイトの検索表を用いた例:「カヤツリグサ科の概略」途中から入る)

・小花の鱗片は2列に並ぶ(図参照) → 花序は茎頂にだけある(図) → 花被はなく柱基は肥厚しない → 『ヒメグ属』か『広義カヤツリグサ属』のどちらかとなる。

(続いて「カヤツリグサ科全属・亜属の一覧」から)

・柱頭が2個であることと、果実は背腹(前後)に扁平(果実の平らな面が小軸に向く:模式図)であることから〔シロガヤツリ亜属〕か〔ミズガヤツリ亜属〕のどちらかに該当。続いて、小穂は赤褐色や褐色が強くなく淡い色で、散形花序ではなく頭状花序であることから〔シロガヤツリ亜属〕に絞られる。

〈シロガヤツリ亜属の種の検索〉

・果実の長さは幅の倍長でいど(図参照) → 小穂の鱗片は2列生、分布も関東に合致する(検索表参照)ので本種はアオガヤツリとなる。念の為図鑑類にて絵合わせし確定する。

なお、本種はまれに柱頭が3個の花が混在し、果実も偏3稜形のものがある。今回の採集品もはじめは柱頭2個と認識して検索を進め種を確定したが、精査するうちに偏3稜形の果実(図)が混じっていたことから、注意深く柱頭を再点検したところ柱頭が3岐するものが確認できた(図)。また果実が熟している花序では小穂が振れているものがみられた。

サイト内の検索表《シロガヤツリ亜属 *Micheliani*》の記述では、以下のように記している。

◇柱頭3個を多く混ざるものでは、果実が熟すと鱗片の2列生がずれて、小穂が少し振れる。

また、小穂の扁平については、

◇小穂の上部では扁平、下部ではやや扁平となる:鱗片の背は丸く稜なし(鱗片に対して果実は小さく半長程度であり、果実が納まった状態の鱗片の上部は空のため2つ折れで左右から平らとなる。鱗片の下半部では接する側の果実面が鈍稜であることにより背は丸くなる。実際に熟期の小穂でみると、小穂の上部では両縁が鋭稜で扁平にみえ、小穂の下部では両縁が円鈍稜でやや扁平にみえる。しかし未熟期では小穂は全体が扁平にみえる)。

以上。(2012/9/12 山口純一)